

## 掲示板

### 平成十四年度

### 地域農研農業総合研 修会開催の予告

WTO新交渉の開始、米政策大綱一の発表、長引く不況の影響など、北海道の農業・農村をめぐる環境は、一段と厳しさを増してきています。その中にあって、地域に於いては農業生産の担い手の高齢化と後継者不在が顕在化、生産の根幹である農地の面でも不作付けや耕作放棄の拡大が懸念されています。また、全国の低落傾向にも増し

て北海道では趨勢的な農地価格の低落が続いており、より危機的な状況に陥る前に、衆知を集めてその対応策を講ずることが急務と考えられます。そこで平成十四年度の当研究所の研修会を下記のとおり開催する計画です。お知らせ致します。

#### 記

- ①開催時期 2月13日(木) 13時～17時
  - ②開催場所 全日空ホテル
  - ③テーマ 「揺らぐ農業、北海道の農地問題を考える(仮題)」
- 基調講演  
早稲田大学教授  
堀口健治氏
- パネルディスカッション

基調講演によって、農地をめぐるさまざまな問題発生メカニズムの解説と諸外国や都府県の取り組み事例から、基本的な対応方向に関する知見を得る他、パネルディスカッションでは、道内の農地問題に関する多様な取り組み事例の成果及び課題に関する情報交換と討論によって論点を整理し、現地での今後の対応の指針を得ようとするものです。

### 編集後記

先日、今回の特集の取材で蘭越に新規就農した及川さんと若山さんを訪問した。お二人とも一から規模の野菜・畑作経営で経

営も心配であるが、機械装備もほとんど無く、どちらかというところのサラリーマン風で正直のところ身体が持つかないと心配になるほど華奢な体つきである。それでも地域集落が彼らをはたき支えていることが言葉の端々から伝わってきた。新規就農の大切な要素であろう。

またそれぞれが試行錯誤を繰り返しながら経験を蓄積していく過程を楽しんでいることが分かった。ハウスにアブラムシが大量発生したときにテントウムシを数匹放したら、それが子供を生んで見る間にアブラムシを食った様子を、夫婦で目を丸くして話してくださる様子から、仕事の中に感動を持てるなんて農業もなかなか素敵なお商売だと

## DATA FILE

### 関連事項/ DATA

#### (財)北海道農業開発公社

〒060-0005  
札幌市中央区北5条西6丁目  
TEL 011(271)2231

#### ホクレン農業協同組合連合会

〒060-8651  
札幌市中央区北4条西1丁目3番地  
TEL 011(232)6108 広報宣伝課

#### (社)北海道農業担い手育成センター

〒060-0001  
札幌市中央区北1条西7丁目  
(プレスト1・7内)  
TEL 011(271)2255

#### JA ようてい 蘭越支所

〒048-1301  
磯谷郡蘭越町104  
TEL 0136(57)5211

#### 蘭越町

〒048-1392  
磯谷郡蘭越町258番地5  
TEL 0136(57)5111

#### 旭川市

〒070-8525  
旭川市6条9丁目  
TEL 066(26)1111

#### JA あさひかわ 旭正基幹支所

〒078-8363  
旭川市東旭川町旭正118  
TEL 0166(32)2231

#### (社)北海道地域農業研究所

〒060-0004  
札幌市中央区北4条西7丁目1  
TEL 011(281)2566  
E-mail : kaihou@chiikinouken.or.jp  
HP: <http://www.chiikinouken.or.jp/>

改めて思った。

歳と共に人間は心の動きが鈍くなる。時にテレビの別れの場面などで涙が出ることはあるが、単に涙腺が緩くなってきたいるだけで、心からの感動はここところしたことがない。そう言えばトラブルに見舞われても、はらはらドキドキのレベルも下がってきている。これもど

うも経験から来る落ち着きとは違っていて、心の動きが鈍くなっているせいかも知れない。感動も筋肉と同じで鍛えれば強くなるのだろうか。だとしたら、彼は百姓というくらいだから、私達サラリーマンにはとうてい経験できない様々な仕事を通じて、多くの感動を味わえるのだろうと思うとちよっぴりうらや

ましくもある。

経営だとか、再生産だとかややこしい話を抜きにして、家族が飯を食っていけて、新鮮な野菜を食べられて、食後に美味しいコーヒーが飲めればいい。おまけに夫婦で感動を分かち合えれば最高の商売、農業をこういう視点で捉える人たちが確実に根付いてきていることは、地域

作りを考える上で無視できない要素になってきた。

